

平成 30 年度第 3 回長崎市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 平成 31 年 2 月 8 日（金） 15 時 15 分～15 時 40 分
- 2 場 所 長崎市立伊良林小学校 図書室
- 3 出席者 **【市長】**
田上市長
【教育委員会】
橋田教育長、中西委員、坂本委員、小原委員、野本委員
- 4 事務局 **【市長部局】**
企画財政部政策監、都市経営室長、同室主幹、同室係長
原爆被爆対策部被爆継承課長、同課平和学習係長
【教育委員会事務局】
教育総務部長、総務課長、同課課長補佐、同課総務係長、同課主任
学校教育部長、学校教育課生徒指導係長、同課指導主事
- 5 次 第
(1) 開会
(2) 内容
①新しい平和教育に係る対話型授業についての意見交換
(3) 閉会

6 議 事 以下のとおり

事務局 (市長部局)	【15：15 開会】 ただいまから、平成 30 年度第 3 回長崎市総合教育会議の意見交換を開催いたします。
市長	皆さんお疲れ様でした。私も初めて見ましたが本当に素晴らしいですね。 今日は皆さんと一緒に考えてきた新しい平和教育の在り方の実践を見ていただきましたけれども、早速、意見や感想などを聞かせていただければと思います。

<p>委員</p>	<p>アクティブラーニング型の授業で、まず自分で自問自答して、それからグループで聞き合って、今日は全部のグループは発表できなかったけど、深められたかなと思うんですけども。</p> <p>こういうタイプの授業で、私自身は「どちらでもない」という黄色が多いんじゃないかと思ったんですが、はっきりピンク（平和である）、グリーン（平和でない）に分かれて。</p> <p>選ぶのは難しいんだろうなと思いました。たとえば、単純に基地があるとかないとかも、「なければいい」、「あればいい」ということでもなく、あってどうだとか、多面的・多角的にいろんな問題がある。6年生の段階ではそこまでは深められないのかなと思います。</p> <p>ですから、長崎から発信ということと言ったけど、今後何かもう少し焦点を絞ってそのことを多面的に考えられるように発展していくともっといいかもしれないなと。テロもあれば、自然災害もあって、ちょっと広すぎたかなと思いますね。自然災害なども広い意味では平和じゃないんでしょうけど、平和と結びつけていいものかどうかですね。その辺がだんだん絞られていくと考えやすいんじゃないかなと思いました。</p>
<p>委員</p>	<p>平和ではないという児童が最初は多かったので、とてもびっくりしました。授業を聞いていくうちにわかったんですが、私的には「戦争がない＝平和」、戦争があると平和じゃないみたいな、どうしてもそういう観念が強いところが私個人はあったということに気づかされました。</p> <p>事故や事件があったり、いじめがあったりなどそういうのもまた平和ではないということで子どもたちは認識しているんだなということを私自身が気づかされました。</p> <p>驚いたのは、子どもたちはみなさん手を挙げるし、書く時もみんな書いてるし、慣れてるなというところがあって、お聞きしたかったのが、これより前にどんな授業をされていた結果、この授業になったのかということと、これから先どんな授業を展開されていくのかなということを知りたいところです。子どもたちの机の上を見ていると、いろんなチャート図的なものがあったので、たぶん今日いきなり単発でこの授業をされたわけではないんだと、今までそういう積み重ねがあった中で今日の授業があったので、あれだけ書けたし、発言もあったのかなと思いながら、前にどんな授業をしていたのか、今後どんな展開になっていくのかなと思いました。</p> <p>それから、時間がなかったというところがあるので、今後につながっ</p>

<p>教 育 長</p>	<p>ていくのかなと思いますけれども、最後のまとめのところが大事なんだと思いますが今回はそこが短かったので、この先どんな感じで展開されるのか教えていただければと思いました。</p> <p>授業としては4時間ですね。</p>
<p>事 務 局 (教育委員会)</p>	<p>指導案の「4. 単元計画」の要領でこの単元について学んで、道徳をしたり、それ以外にも「3. 児童の実態」のところにもありますように通常の授業の中で平和について学習してきました。6年生の最後のまとめにあたる部分での今日の学習という流れになっています。</p>
<p>委 員 員</p>	<p>子どもたちはすごく鍛えられているなど感心しました。社会問題などにも詳しい人がたくさんいたり、学習方法も一つの型に沿って、たぶん何回も繰り返しされて、学び方も身に付いているなどと思いました。</p> <p>こんな形で平和教育をしていくと、ただ聞くだけの平和教育ではなく、自分の考えを友達に話しながら深めるということができるのではないかと思います。平和を考える時は自分のこととして考えるために、友達や身近な生活、いじめなどに置き換えていくと、そこから自分がどうすればいいかというのがわかってくるので。</p> <p>6年生らしく米軍基地の討論とかいろいろ出たんですけど、自分の生き方と重ね合わせて考える討論もあってよかったかなと思いました。こういう方法ですつとしていくと、行動が変わっていくというふうにはなると思うんです。</p> <p>行動が変わるためには気づきが大事ですし、こういう対話的な授業は世界的な人権教育潮流の中で生まれてきているんですけど、こういう形の授業がなぜいいかというのは、気づきをもたらして、そこから行動を変化させるという大きなねらいがあるので、そのためにはやっぱり振り返りが大事だと思うんですね。私も大学の授業でほとんどこのやり方でやってるんですけど、一番の課題はどうしても時間が足りないんです。子どもたちの意見をたくさん討論させたいとなると、最後に振り返りができない。でも、一番大事なのは振り返りです。</p> <p>振り返りの共有で深く学ぶことができるので、このパターンの授業をした時の先生たちの悩みというのは共通してそこじゃないのかなと思うので、その課題をどうやって克服するかというのを今からみんなで考えていくことが大事かなと思います。本当に子どもがよく鍛えられているので感心しました。</p>

<p>委員</p>	<p>以前、小ヶ倉中学校の平和学習の時も感じたことなのですが、アクティブラーニングのスタイルが、子どもたち自身が他の子どもたちの意見を聞いたり、聞いた意見の中から自分の考え、そういうものをまたしっかりと自分の意見としてまとめてきちんと発言できるということを鍛えていくことに非常に役に立っているなど。ちょっと大げさな言い方になるかもしれませんが、日本人が一番弱いようなところを今の子どもたちは鍛えられているのではないかなと、そういう意味では将来が非常に楽しみだと感じました。</p> <p>ただ、授業の平和ということについての取り上げ方に関しては、焦点があまりにも広すぎるのかなという気がして、もう少し子どもたちの身近なところから平和を考えたりすることの方がいいのではないかという気がしました。</p> <p>先ほども話が出ていましたけれども、米軍基地のことに関して、子どもたちが非常に現実的な意見を持っているということに驚きました。私自身は同意見なのですが、大人として、はたち過ぎぐらいからはもう少し現実的でもいいのしょうけれど、小学校の子どもたちということを考えて時に、もう少し夢を持っていた方がいいんじゃないかなと感じました。</p> <p>あとは、最後のまとめのところなんとなく私自身も物足りなさを感じたところでした。</p>
<p>教育長</p>	<p>他の学校でも気づいたことなのですが、自分のころと授業の形態が様変わりなので、そのギャップがなかなか埋まらないなと思いながら、今日の授業の方法は、先ほどからお話が出てるように、自分でしっかり考えるということの意味では非常に有用なんだろうなと思います。</p> <p>ただ、皆さんもおっしゃったように、今まで4時間の積み重ねがあるのでこういう結果になったのかなと思うんですが、友達の話から米軍基地の話までちょっと幅広くなりすぎて、今日はそのところが少し逆に消化不良の点があったのかなと思います。結果的にもう1回やりましょうねという話になったので、そこは少し解消されるのかなと思いましたが、そこで少し今までの積み重ねのなかで絞っていくということもありなかなとは思いました。</p> <p>その辺りは先生方が専門家なので、これから改善されていくと思いますけど、考えさせるという意味では非常に有用な形だろうと感じました。</p>

<p>委員</p>	<p>健康科学の中で「半健康」という状態があり、だいたい7対3で健康であれば「健康」、病的要因が多ければ「病気」、その間が「半健康」と言われているんです。そういう意味では、「半平和」という考え方も。要するに、病気と言うと重篤な病気が1つある、でも、血圧が高い、血糖値がちょっとなど小さい病気がたくさんあって、それが7割ぐらいあるとそれはそれで病気だろうということ。完璧に100パーセント平和という問題がないことはない、7割ぐらい平和であれば平和として、もう少したくさん問題が出てくると平和とは言えない、でも、「平和でないが戦争とは言えない」というような状態の考え方もまた平和教育の中にあってもいいかなということもちょっと考えました。</p>
<p>市長</p>	<p>新しいやり方が始まったばかりなので、今の時期は試行錯誤。だからこそいろいろ皆さんで見えて、感じた事を出し合うのが大事な時期なんだよと、今のご意見を教育委員会から先生に伝えてもらって、それが活かされるといいなと思います。</p> <p>私も今日見学させてもらって感じたんですけど、やっぱり子どもたちは個性が違うので、その中で全員参加型にしているのはすごくいいなと思います。</p> <p>それは平和を考える時の原点で、頭のいい子だけが平和を考えるわけではないので、そういう意味ではやり方としては面白いなと思います。</p> <p>それから、やっぱり、知識も大事ですが、心の中に平和というのがしっかり残っていくというのが、平和の発想、平和の種が植えられるそれが小学校の頃とかすごく大事で、今日みたいな議論をするのもすごく大事だと思うし、一方で、平和を創る体験をするというような場面があると、例えば、あまり話したことがない人とか、普段はあまり目立たない人だったり、そういう人達も活躍するような何かみんなで作るものをつくり上げたりとか、そういう経験があるとそれはたぶん、平和というのはこういうものなんだというのを経験することにもなる。</p> <p>そういう経験などがどこかでつくられるような教育の仕方みたいなものがあると、子どもたちみんなで作る時が一番楽しい。自分で自分の力を認められることがすごく嬉しいけど、それとは違うみんなで作るという楽しさというのがあるということを経験することができたら、それはたぶん平和教育と平和を創るという意味ではすごく意味のあることではないかなと思います。</p> <p>まだ1年目なので、いろんな平和教育のあり方をこれからいろいろ先</p>

	<p>生たちに探してもらえたら嬉しいなど。</p> <p>というのは、ここまでくる過程、ここまでくる間に相当頑張っ、いろいろな工夫をされて今日の授業になったんだろうと思うんです。</p> <p>見学の先生たちもたくさん来ていたので、それが知恵になって、またいろいろ新しい違うやり方も出てくるのかもしれないと思います。</p> <p>いずれにしても、総合教育会議でいろいろ議論したことが現実になっているというのがすごく素晴らしいことだと思います。</p> <p>教育長も言ったように、あまりにも私たちの子どもの時と違うので。</p> <p>工場に行ったら昔のベルトコンベア式の工場のイメージで行ったら、今は全然違う工場なので、それと同じような驚きがありました。</p>
委員	<p>アクティブラーニングの意見のやり取りをしながら、結果的には一つの着地点に班としてもっていくというようなこともあるのでしょうかけれど、当然、班の中では違うままで終わっているという、これが私は大事な気がしますね。多様性と言いますか、そういう相手の意見を聞く姿勢ができて、そして、ただ相手の意見と自分の意見が同一にならなくてもその意見を認める。これは平和だけじゃなく、いろんなことにつながっていく。いじめが減っていくというようなことにもつながっていくのではないかなという気がします。多様性を認めるというか。</p>
市長	<p>それは平和の核心ですよ、こちらの方が正しい、あちらが間違っているというところからすべてが始まる。</p> <p>学校の現場では、先ほど言ったようなみんなで何かつくり上げるということはいろんな場面であるんですよ。</p>
事務局 (教育委員会)	<p>そうですね。よく特別活動という部分で、中学校であれば合唱コンクールであったり、小学校では体育大会があったり、そういう中で協力しないといけないものに価値を見つけていくという体験は必ず取り入れようと。これは日本の文化としてそういうものがあって、とってもいい学校文化じゃないかなという感じがします。</p> <p>今日の学習指導案の3ページに平和学習のまとめのところに、実は、ねらいが定めてるんですが、先ほど委員がおっしゃったようにそこに行きつかない。本当はここに最終的にゴールを持ってきて、平和というのは、多様な考えを理解しながら聞くことで、自分の考えを深め、違いを認め合う良さを共有することが平和への第一歩なんだよということを最終的には学習として落とし込まないとなかなか授業にはならないという</p>

	ところが今後の課題です。
委員	最後の多様な考え方のところで、そういう意味で、仮想平和でない状況というのをプログラムとして出して、それに対してどうしたら良くなるかみたいな、平和の創造で平和創造体験学習プログラムとか、それについてお互い意見を出し合って、そういう考えもあるかみたいなところからどうしたらそこを認めていけるかみたいな学習プログラムをつくってもいいかなと思ったりもしますね。
委員	人間関係の中で対立を超えて違いが分かり合えるというようなワークショップとか、そういうのをずっと繰り返す中で相手を理解して、自分は違う意見を持っているけど、でもあなたの意見は解るよといった、子ども自身も折り合いを見つけられるようにしていくことが大事だなと思います。
委員	国同士でも一緒なわけですよ。
委員	それはやっぱり練習をしないと、教育の中で訓練していく必要があるなと思いますね。
市長	この平和学習のまとめということなんですよ。
事務局 (教育委員会)	ワークショップの難しさですよ。
委員	時間がやっぱりどうしても足りないんですよ。
事務局 (教育委員会)	振り返りとシェアリングをどうしていくかというところですね。
委員	シェアリングまでいかないとダメですよ。でも、スタートしたのでこれからいろいろ進んでいって。
委員	日本でこんな学習をやっているのは長崎と広島だけだと思いますね。
委員	もう一つ思うのは長崎と広島という共通項は原爆じゃないですか、長

<p>市長</p>	<p>崎の場合は原爆以前の歴史もその多様性を受け入れてきたという歴史の風土がある、というのも一つの強みとして語れるのではないかと思いますね。</p> <p>今でも宗教者懇話会の人たちの動きというのは、いろんな宗教が一緒になって平和活動をやってるわけで、キリスト教の行事に行ってもお坊さんがいたり、お寺の行事に行っても神父さんが座ってるという、そういう姿というのは平和の姿そのものでもあると思います。いろいろまちの中にも学ぶところはあるので。</p> <p>少し、広げた話になりますけど、よく一人の人が少し変わったことを始めた時、例えば、誰かがまちの中で踊り出した時、その人が踊ってるのを黙って見てるだけだと何も起きないんだけど、二人目の人が動き出すと三人目が生まれてきて、四人目が生まれてきてみんなが躍り出すというような、そういうみんなすごくスッキリして解散するというような、そういう世の中で、二人目の存在の大切さとか、あるいは、何事でもやっぱり最初は一人から始まるから、勇気を持って最初したいことをやってみるとか、言ってみるとかということが大事だったり、そういうことがコツみたいなものがいくつも含まれているような、見てる人と見られてる人の間に線はなくて、どっちもいるからどっちも楽しいわけで、なんかそういう、たくさんその中に含まれているような感じがして、その辺りを一回みんなで作ってみて、そのことの意味合いを、だから、あなたの友達がなんかちょっと変なことを言った時に、ちょっと頷いてあげるとか、そうすることでその子が仲間外れにならなくて済んだりすることもあるかもしれないし、どこかにそのことを体感して知恵として教えてあげるような場面とか子どもの頃にあると、すごく後で助けられることがあるんじゃないかなと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>今日は、先生方が頑張ってる形にしてくださってるのがわかったので、引き続き努力をしていただいて、また1、2年経過したら新しい平和教育の在り方をぜひ見せていただければと思います。</p> <p>どうもお疲れ様でした。</p> <p>【15：40 閉会】</p>